

てんて ねっと

連載73回

様々なコミュニケーション ケーシヨン方法

(有)いいやま 清水佑市さん

現在、多くの人がコミュニケーションに何らかの難しさを感じているそうです。人見知りや上手く会話ができない…人と話すのが苦手…自分の気持ちが思ったように伝えられない…等々です。今回は、会話を中心とした言葉によるコミュニケーションを苦手としながら、企業の中で働く清水佑市さんを紹介

介します。

清水さんは、飯山市木島地区にある「有限会社いいやま」で働いています。飯山養護学校高等部を卒業後、就労移行支援事業所利用中に行った施設外就労が就職のきっかけでした。仕事に取り組む姿勢がまじめで、作業の正確性も高い点を評価されたので就職でした。

清水さんは同級生や家族など限られた人とは緊張せずに話すことができますが、改まった環境で自分の考えを伝えたり話したりすることは苦手です。会社の方は、採用当時の事を振り返り「初めての障がい者雇用で、本人が話してくれないという戸惑いもあった」と話します。また「清水さんがが本当にうちの会社で働きたいと考えているのか意志を確認して欲しい」とも支援者に依頼したそうです。今回の取材でも清水さん本人の口からお気持ちを伺うことができ

ませんでした。が、頷きや笑顔で仕事の楽しさや就業生活の様子を私たちに伝えてくださいました。

清水さんは現在、主にしめじのパッケージ作業を担当しています。職場では最後の1ケースになった時や機械の異常があった時は、ベルを鳴らして周囲に知らせるとい

方法を取り入れていきます。手際よく細かいことによく気付き、周りを見ながら状況を判断して他の方を助けることができるという清水さん。皆さんと一緒に、お昼を食べ、親睦会にも参加されるそうです。採用担当の方からは「入社して

3年経った今、この会社に欠かせない存在です」とうかがいました。

得意な部分を引き出し環境を整備することで、誰もが働きやすい職場になるのだと感じた取材でした。

(雇用支援ネットワーク部会員
高山美和子)



左から萩原さん、清水さん、鈴木さん、大塚さん